

第一支部

第一支部報告

ア. 浦和区健康まつり説明会

- (ア) 日時：平成 28 年 10 月 6 日（木） 14：00 ～
- (イ) 会場：浦和コミュニティセンター
- (ウ) 参加：地区理事
- (エ) 内容：健康まつりについて

イ. 浦和区健康まつり

- (ア) 日時：平成 28 年 11 月 6 日（日） 10：00 ～ 15：00
- (イ) 会場：浦和コミュニティセンター（浦和駅東口コンナレー 10 階）
- (ウ) 主催：浦和区役所保健センター
- (エ) 協働：アシスト浦和 21
- (オ) 内容：
 - (1) 医療で用いる放射線検査についての説明
 - (2) 骨密度測定の実施



ウ. 平成 28 年度第 2 回勉強会

(ア) 日時：平成 28 年 11 月 24 日（木） 19：00 ～ 20：50

(イ) 会場：コムナーレ浦和 15 集会室

(ウ) 参加人数：36 人

(エ) 内容：

(1) メーカー講演 19：00 ～ 座長 済生会川口総合病院 土田拓治

『デジタルマンモグラフィ装置 Selenia Dimensions』

ホロジックジャパン株式会社 矢田絵都子

(2) 一般講演 19：20 ～ 座長 済生会川口総合病院 森一也

『当院の腰椎撮影条件の検討』

演者 済生会川口総合病院 戸澤僚太

『英語発表ってどんなの？』

演者 済生会川口総合病院 志藤正和

(3) 特別講演 20：00 ～ 座長 済生会川口総合病院 森一也

『治療用照射装置出力線量の第三者機関による測定を実施して』

演者 済生会川口総合病院 倉持正樹

第二支部

第二支部会からのお知らせ

循環器 CT セミナー 2016 開催報告

所沢ハートセンター 柴 俊幸

本原稿執筆時点ですでに師走に入っており、第二支部における定期勉強会は全て終会となった（第6回は降雪で中止となったが）。

去る8月27日、循環器CTセミナー2016が開催され、天候にも恵まれない状況であり、また去年まで使用していた会場が使用できなくなり、今年度から初めて浦和の会場で行うこととなり参加者数への影響が懸念されたものの、262人の参加者となり大盛況で終会とすることができた。本年度も関東からはもちろん、石川県や新潟県、山梨県など、遠方からの参加者も見受けられた。私自身は業務が終わってからの参加となったが、本年度より午前からの一日開催となり、ランチョンセミナーのために用意したお弁当が開会と同時に消えていったという、嬉しい悲鳴を実行委員や参加者から伺った。これもひとえに実行委員の皆さま、メーカーさま、講演ならびに座長を引き受けていただいた皆さま、そしてご参加いただいた皆さまの協力の賜物であり、この場をお借りしてお礼申し上げる。

第二支部では定期勉強会の他に循環器CTセミナーのような支部の枠を越えた実行委員による勉強会をいくつか開催させていただいている。定期的な実行委員会は開催しているものの、驚くべきはその裏のメール会議である。講師の方々は自主的にスライドづくりを進め、メールで投げられれば実行委員の意見交換が始まる。そしていつしか全てのセッションが完成している。また進行や時間配分についてもいろいろな角度からのご意見を頂けるため、かなり完成度の高い勉強会になっているのではないかと感じる。またその様子を見た若手の技師さんは、日常業務や自身の勉強が忙しい中でも、当たり前のようにメールチェックや意見交換に参加してくれる。真剣にメール会議をすることでいざ顔を合わせれば熱い話が交わされ、懇親会でもその火が消えることなく、飲食代以上に有意義な時間を過ごすことができる。たまに「何でこの人たちはこんなに会話が続けるのだろう」と思うことさえあるが、これは皆が自分の好きなことを見つけ勉強し、好きではないことも勉強し、自分なりの解釈をして誰かに伝えられるだけの努力をしてきたからに他ならないと思う。熱意を向けたことを熱意を持って伝えれば、必ず誰かに響くものであり、経験年数は関係なく、このような方々にお話いただければ支部は必ず活性化し、ひいては日常の診療放射線業務も楽しいものになるのではないのでしょうか。



今後も第二支部へのご協力をお願いするとともに、ぜひ「我こそは！」という技師さんがいれば遠慮なくお声掛けいただければ幸いです。

第4回特別セッション座長集約 1) 一般撮影

防衛医科大学校病院 野瀬 英雄

平成28年度第4回勉強会の特別セッション、一般撮影の発表では、埼玉医科大学病院の仁藤 真吾氏に「Talbot-Lau 干渉計 X 線撮影装置による臨床撮影」について発表していただきました。発表内容は、まず Talbot-Lau 干渉計についての原理、Talbot 効果と Lau 効果の解説からはじまり、出力画像には、吸収画像と微分位相画像、小角散乱画像の3種類の画像が得られることを学びました。そして現在、埼玉医科大学病院では Talbot-Lau 干渉計撮影装置を用いて、早期リウマチの診断の研究が行われているそうです。

実際の手の MP 関節画像を供覧しましたが、関節の軟骨部分が実に鮮明に描出されていたことに驚きました。そして矢継ぎ早に5つの症例画像を提示して解説していただきましたが、軟骨のくぼみや希薄化、表面不整など、従来の X 線画像では決して見ることはできない画像を見ることができ、私を含め、参加者にとって大変有意義な時間を過ごすことができました。そして発表後の会場からの質問には、X 線管球の焦点サイズのこと、健常者の関節軟骨の厚みに関すること、手の MP 関節を研究対象に選んだ理由など非常に活発な質疑応答になりました。

将来的には、製品化されるのは間違いない Talbot-Lau 干渉計撮影装置ですが、実用化に向けて克服しなければならない問題点はいくつかあるようです。私がお聞きしたお話では、現状では X 線の出力が小さく、照射野が 8 × 8cm であるため、厚みのある部位や大きな視野では撮影することが難しいということ、皮膚のしわまで画像に写りこむため、エコー用のゼリーを使用して表面を均一にしてから撮影する必要があること、T シャツや衣類はアーチファクトになるため、脱衣のプライバシー問題などが課題として挙げられるようです。

いずれにしても、本装置は従来の X 線撮影より感度が高く、リウマチの早期診断やがんの早期発見への貢献が期待されており、従来の検査の勢力図を大きく塗り替える可能性を秘めています。今後の Talbot-Lau 干渉計撮影装置の動向に注目していきたいと思います。

2) CT「整形疾患から考える CT 撮影のポイント」

上尾中央総合病院 金野 元樹

企画2「整形疾患から考える CT 撮影のポイント」として越谷市立病院 村本 圭祐さまに頸椎・腰椎の CT についてご講演いただいた。

内容は、解剖やポジショニング方法、撮影方法、一般的な症例から希少な症例の解説、さらには、物理特性や MAR（メタルアーチファクトリダクション）までバラエティに富んだ内容であった。その中でも

環軸関節回旋位固定という症例が興味深い内容であったのでピックアップした。

環軸関節回旋位固定とは、10歳以下の小児に好発し、斜頸位が特徴で矯正しようとする強い痛みを訴える病症である。軽微な外傷や何らかの頸部周辺の炎症が誘因となって発症することもある。環椎・軸椎周囲の軟部組織異常の有無を確認する上でもCTは有用であり、この症例を疑う際には軟部条件が必要である。環軸関節回旋位固定は環椎のすべる方向、すべり具合などによってFielding分類（Ⅰ～Ⅳ）に分かれ、分類分けおよび形態評価にVR画像は有用であるとのことであった。

椎体系の症例においてCT撮影を行う意味、有用な画像処理についてご教授いただき、聴講者の皆さまも明日から実践で使える内容であったと思う。

現在、新たな認定資格として画像等手術支援認定診療放射線技師の話が尽きなく、整形領域においても3D画像の有用性は十分ご承知の事と思う。また高性能CT装置の普及、ワークステーションの発展も伴い、整形領域の3D検査は増加傾向である。しかしながら、患者の状態によるポジショニングの工夫、装置の性能を熟知した撮影条件の設定、臨床から考える画像再構成・処理の重要さは、今後不変であり、村本さまのご講演内容に合った通り、臨床情報や画像から症例までの一連の流れを考えることにより、見た目だけの3D画像ではなく、症例に対してどのような手を加えればよいかという、職人気質な部分に気付けるのではないかと考える。

埼玉県では、今年度より骨・軟部画像診断研究会が発足されている。個人的には整形領域の勉強会が少なく感じている部分もあり、嬉しい限りである。これを機に私自身も含めて整形領域に興味を持ち臨床に活用できる診療放射線技師が増えてくれることを願う。

演者の村本さま、ありがとうございました。

3) MRI「プロトコルを考える ～基礎からの腰椎MRI～」

済生会川口総合病院 丸 武史

このたび、特別セッションのMRIモダリティにおいて、腰椎MRIを中心とした講演が企画された。腰椎MRIは整形領域の検査の中でも頻度の高い検査であり、MRIの特性やプロトコルの組み立ての難しさを常に体感する部位であると思われる。今回、腰椎のMRIを撮影するにあたって知っておかなければならない臨床面の知識や、撮像技術について、上尾中央総合病院 石川応樹氏による講演が行われた。

腰椎MRIは腰痛の精査で行なわれることが多いが、下肢痛を伴わない腰痛の85%は画像検査において、病理解剖学的な診断を正確に行なうことが困難であると報告された。よってMRI画像診断の役目として原因の明らかな腰痛と明らかなでない腰痛を分類することが重要とのことであった。そのためには病変に合わせたプロトコルの設定・組み立てが必要である。

例えば、腰椎の代表的な疾患である椎間板ヘルニアは、神経支配領域（デルマトーム）を反映した神経症状を呈することがあるので、病変の検索には撮像範囲に注意する必要があるとのことであった。椎間板ヘルニアは突出する場所や程度で撮像範囲を随時決定する必要があるため、そのためには椎間板ヘルニアの病態や神経支配領域を把握しておくことが助けになるとのことであった。また撮像範囲を決定するに当たり、クロストークアーチファクトが問題となることが多いが、スタック撮像やスライス励起順の変更な

ど、具体的な対策方法が講じられた。さらに連続 Axial 撮像の意義についても報告があり、施設におけるシーケンスの特徴も紹介された。

その他、脊柱管狭窄症による馬尾弛緩や sedimentation sign、分離すべり症における Axial の脂肪抑制 T2WI の有用性、椎体骨折や腫瘍・脊椎炎における撮像シーケンスの選択方法や鑑別点など、学術論文や各種ガイドラインに基づいた説明が行われた。さらに本講義を終えた際、会場からは T1WI Axial の必要性（ルーチンに含めるかどうか）などの質問があり、活発な討議が行われ、腰椎 MRI 検査の関心の高さ・奥深さを実感する内容であった。

本講義では、腰椎 MRI において診断できる腰痛の原因病変をしっかりと描出することが重要であることと、そのためには臨床の知識や撮像技術が欠かせないことがあらためて示された。われわれ診療放射線技師の役目として、臨床価値の高い画像を提供するために、これからも精進していきたいと思う。

富士フイルムメディカル株式会社講演 座長集約

防衛医科大学校病院 野瀬 英雄

製品紹介では、富士フイルムメディカル株式会社 浅野省二氏に、一般撮影の最新画像処理として「ダイナミック処理」をご紹介していただきました。ダイナミック処理とは、被写体組織認証を採用して自動濃度調整を行い、被写体のダイナミックレンジを解析することで被写体全体を描出することが可能になります。

従来の処理では、画像の全領域のヒストグラムから関心領域を推定して S 値を算出するため、ヒストグラム形状によって、L 値の自動調整を行わなければなりません。しかし、ダイナミック処理では、被写体以外のもの、例えば、鉛の遮蔽物やインプラントなどの人工物をコンピュータが自動認識して、被写体の関心領域を把握し、ヒストグラムを生成してから S 値を決定することが可能になりました。従来の処理よりもコントラストの安定性が増したため、L 値は固定となりました。そして画素ごとに被写体厚を推定し、L 値の範囲内に画像データが収まるようにダイナミックレンジ圧縮を自動調整。被写体厚によるバラツキを抑えて安定した画像を生成できるようになりました。

従来処理とダイナミック処理の画像を供覧したところ、ダイナミック処理の画像では、従来処理の画像と比較して被写体内の全領域においてコントラストが際立っていました。私的には少し強調が強めな感じが否めず、自施設に導入した場合、経過観察している過去画像との整合性を確認する必要があるように感じました。処理時間については、従来処理とあまり変わらずストレスは感じないとのこと。処理パラメータは従来処理と同様だそうです。

一般研究発表では、『一般撮影の線量管理 最新状況』と題して、同じく富士フイルムメディカル株式会社の浅野氏に発表していただきました。内容は、富士フイルムメディカル株式会社が開発した放射線部門管理支援サービス ASSISTA Management（アシスタ マネジメント）についての説明でした。現在販売されている富士フイルムメディカル株式会社の F-RIS には、統計処理機能が搭載されており、患者情報や検査部位など F-RIS の持っているパラメータ情報から検査情報を抽出することが可能でした。しかし、抽出された情報から平均検査時間や再撮影率を求めるには、抽出データをエクセルに展開して統計解

析する必要がある、ユーザーが求めている情報を入手するにはちょっとしたコツが必要でした。今回発表していただきました ASSISTA Management は、検査時間や再撮影率だけでなく、X 線撮影条件、S 値・EI 値、撮影機器稼働実績、IP 撮影実績、DR カセット衝撃リストなども分析することができるよう。ASSISTA Management は、リモートメンテナンスで使用するネットワークを介して、検査情報をデータセンターに送信。その情報からさまざまなグラフやリストの作成が可能になるようです。再撮影の画像のみをピックアップ、サムネイル画像としてリスト化することも可能で、画像検討会などで役に立ちそうです。今後、装置や検査室の稼働実績、技師の平均撮影時間の情報をデータとして蓄積されれば、そのデータを基に、各施設に適した検査運用支援システムを構築することもできそうな気がしました。

第 5 回第二支部セッション座長集約 CT 用低コントラストファントムの作成

狭山中央病院 浜田 真行

平成 28 年度第 5 回勉強会において、国立リハビリセンター病院 肥沼 武司氏による「CT 用低コントラストファントムの作成」についての発表があった。

国立リハビリセンター病院では平成 26 年に、ほぼ全モダリティを更新し、その際に CT は前機種との画像評価の比較を行った。しかし、低コントラスト用ファントムを所有していなかったため、それを用いての画像評価は行えなかった。そこで市販で購入可能な素材を使用し、ファントムの自作を行った。

素材はマジカルウォーター、FRP、クリスタルレジンの 3 種類のファントムを作成された。計測をする際には教科書を基にし、教科書に近い値にならないければ、それは失敗の可能性があり、また低コントラスト検出能の影響因子は、CT ノイズ特性の影響因子とほぼ同じであるが、空間分解能の影響が視覚的評価と CNR で異なる。

費用の総額は 13550 円程で抑えられ、低コントラスト用ファントムは購入すれば 200 万円程もする高額なもので容易ではない。

計測結果はどれも良好なもので、自施設の基礎評価であれば手作りファントムで十分という肥沼氏の見解に至った。また研究発表を見据えた内容なので、国立リハビリセンター病院の技師と共同で作成、計測をしたことにより、良い指導材料になったそうだ。

私の施設ではファントムの制作はもちろん、ファントムを使っでの計測も行ったことがないが、このような研究は知識向上、装置の習熟度の向上だけでなく、CT 装置の適切な状態が維持されていることを確認するためにも大変重要なことだと感じた。

最後に、本勉強会において私は人生で始めて座長を務めさせていただきました。当日までに所沢ハートセンター柴さまによるメールでの細かい指導、段取りもあり、大きな不安を抱えることなく本番を迎えることができました。本番では質問も活況し、時間は押してしまいましたが、とても良い雰囲気で行えたと思います。このような貴重な経験をさせていただきまして有難うございました。この場で感謝申し上げます。

第5回第二支部セッション座長集約 「3月稼働のAngio-CT装置について」・ 「0（ゼロ）からSTART！Angio稼働」座長集約

埼玉石心会病院 千葉 雅恭

第5回埼玉県診療放射線技師会第2支部の研究会は、第2支部の診療放射線技師で演題を発表し、交流を深めるというテーマで行われた。

今回、私はAngioを題材とした二演題の座長を務めさせていただいた。

始めの演題は「3月稼働のAngio-CT装置について ～Angio/80列CT/USの可能性～」で、第二支部ではAngio-CT装置を入れている施設は少なく、実際にどのように運用しているか気になる所であった。演題内容は、Angio室に東芝社製の最新Angio-CT装置を導入して、各機能の特徴や実際使用した所感などを話していただいた。主な機能としてはSPOT Fluoro、Dose Tracking System・3D Road Map・CT Fluoro Half Scan・US Aplio500が挙げられていた。特に、SPOT FluoroとDose Tracking Systemは東芝社製独自の機能である。SPOT Fluoroは透視時に四角で囲った部分のみ透視する機能で絞り込みによる線量増加の抑制になるということだった。Dose Tracking Systemは、Angio装置のX線照射情報からPeakSkinDose (PSD)をリアルタイムで積算していくもので、皮膚吸収線量の表示も数値やカラー表示となっており、医者や看護師でも分かりやすい仕様となっていた。

次の演題は「0（ゼロ）からSTART！Angio稼働 ～稼働に向けた経験報告～」で、私はAngio室を立ち上げたことはなく、身近な施設で立ち上げの話が聞ける機会ほとんどないため楽しみにしていた。演題内容は今まで行っていなかったAngio検査を0から始めるに当たって、どのようなことを重要視しているか、どういった事が苦労したかなど、赤裸々な部分も話していただいた。Angio検査は診療放射線技師だけではなく、医者・看護師で行う検査で、これらの他部署と密接するため、コミュニケーションを取るのももちろんのこと、業務内容のすみ分けががとても重要とのことだった。業務のすみ分けに関しては検査や緊急時を想定したシミュレーションを行うことで、他部署との業務のすみ分けは確立されていると感じた。

私が担当した二演題は、共に未経験の内容だったのでとても貴重な話を聞くことができ勉強をさせていただいた。こういった経験談からたくさんの事を学び、私も自分の経験を伝えられるよう日々精進しようと感じた。

第5回 特別講義 座長集約

埼玉石心会病院 塩野谷 純

座長依頼を受けた際の講義タイトルは「転移のメカニズム」...のはずであった。小澤先生の「転移のメカニズム」は以前にも一度拝聴する機会があったため「それならば自分にも何とか務まるかもしれない」これが最初の意気込みであった。しかし、勉強会数日前に柴副会長より突然のメールが。

(以下メールより)

お世話になります、柴です。

先日お話した小澤さんのタイトルが変わりましたw

「身体のメカニズムと画像診断」

～ ルーティンのままにそのままに 僕は君だけを検査できない ～

・・・このサブタイトルは？

・・・読み上げなきゃやっぱダメなのか？？

・・・むしろ歌うような感じで紹介しなきゃ怒られるのか？？？

・・・小澤先生に確認したら「絶対やれ！」って言われるに違いない...

そんな不安を抱きつつ睡眠不足のまま当日を迎えたのである。

講義は大きく分けて2部構成となっていた。まずは質の高い検査、すなわち画像診断を行う上で重要となる撮影への準備である。新人の頃に放射線医より「画像診断は当てもんじゃね〜！」と怒鳴られたことを今でも思い出すことがある。つまりは小澤先生の講演でもおっしゃっていた通り、患者の身体情報や血液データ・腫瘍マーカーなど、撮影前に得られる情報の使い方を熟知し実践することで、患者さんの目的に合わせた検査を行うことができるのである。そしてそのような検査から得られた画像には「何か疾患が写っていませんか？」という問い掛けから、「ここまで写っていれば診断つきますよね？」と言った読影医との画像を介したディスカッションにも繋がるのではないかと思う。十数年前に小澤先生よりこれら検査指導を受けた身としては非常に懐かしく、また現在自分がどの程度後輩指導へと伝えられているのかを反省しながら拝聴していた。

後半は、がん組織の転移メカニズムの話であった。他施設で使用しているものや研究会から推奨するものなど、CTの撮影プロトコルが容易に入手でき、またある程度の検査はどの施設でも行える装置環境が整っている昨今では、検査目的を根拠立てて理解する、もしくは教育することが少なくなっているような気がする。これからの診療放射線技師を育てる意味でも、本日の内容は新人スタッフを始め多くの人々に聴いてもらいたいと感じる内容であった。

最後になるが、結局のところサブタイトルをコールすることができなかった勇気のなさを自らの課題としておく。

第三支部



第三支部理事 渡部 進一

謹啓

新年あけましておめでとうございます。

昨年は支部合同勉強会（一支部～六支部）に多数ご参加していただき、勉強会・懇親会ともに盛況を博すことができ、感謝申し上げます。多くの方々の期待に応えることができるよう地区役員一同これからも努力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本年も皆さまのご健勝とご多幸をお祈りするとともに、新年のごあいさつと致します。

敬具

第三支部では、昨年度にホームページを開催することができました。会員の皆さまに第三支部・地区の開催事項、活動報告を発信してきましたが、サイトはまだまだ皆さまの満足いくものではないかもしれません。皆さまにはサイトの内容に対しご意見・ご要望・ご提案などございましたら、お知らせいただけるようお願い申し上げます。

また今年3月に予定している勉強会・地区定期総会では、役員の改選を行います。つきましては地区活動を推進するための熱意を有する会員を募りますので、立候補の意志のある会員は、2月末までに第三支部ホームページの「問合せ先」までご連絡ください。

【報告事項】

(1) 第三地区ボウリング大会

ア. 開催日時：平成28年10月7日（金） 19：00～20：30

イ. 開催会場：川越ボウリングセンター

ウ. 参加人数：28人



(2) 第1回 埼玉CTコロノグラフィー研究会 (SCTCM: Saitama CT Colonography meeting)

ア. 開催日時: 平成28年11月10日(木) 19:00~21:00

イ. 開催会場: 川越駅西口 ウェスタ川越

ウ. 参加人数: 約120人(47施設)

エ. 内 容: CTCの2次検査での役割

※SCTCMのホームページ <https://sites.google.com/site/sctcmeeting/lecture>

(3) 埼玉県診療放射線技師会 支部合同勉強会

ア. 開催日時: 平成28年11月12日(土) 13:00 ~18:30

イ. 開催会場: ホテルヘリテージ四季の湯温泉

ウ. 内 容: I. 支部発表: 合同症例検討会、

II. 技師講演: 「被ばく相談やっていますか」

III. 特別講演: 「SARTのミッションと未来へ目指すべきビジョン
~みんなのために! ひとりのために! ~」

IV. 懇親会



田島 技師

(埼玉医科大学国際医療センター)



会場風景

(4) 救急セミナー (第三支部開催)

ア. 開催日時: 平成28年11月16日(水) 19:00~20:30

イ. 開催会場: ウェスタ川越 活動室3

ウ. 参加人数: 14人

エ. 内容: 一次救命処置(CPR, AED)の習得

【今後の予定】

(1) 第三地区 新年会

ア. 開催日時: 平成29年1月28日(土) 19:30~21:30

イ. 開催会場: 函館海や (川越店)

ウ. 会 費 : 5000円

(2) 第3回 第三地区勉強会・定期総会

ア. 開催日時: 平成29年3月17日(金) 予定

イ. 開催会場: ウェスタ川越 予定

ウ. 内 容: 技師講演・メーカー講演 予定

第三支部ホームページ

<http://saitama3shibu.jimdo.com/>

第四支部

第11回深谷市福祉健康まつり 参加報告

第四支部 齋藤 幸夫

平成28年10月30日（日）、深谷市総合体育館（深谷ビッグタートル）にて「のぼそう健康寿命、ひろげよう福祉の輪」をテーマに、第11回深谷市福祉健康まつりが行われました。県内社会福祉施設、関係福祉団体、医療団体など、75団体およびアトラクション参加団体25団体に参加し、お子さんから高齢者まで、幅広い世代の方々と賑わいをみせました。

埼玉県診療放射線技師会第四支部では公益活動の一環として毎年参加をしています。「あなたのための医療画像展」として「パネル展示」「骨密度測定」「被ばく相談」「子供のためのスーパーボールすくい」「コニカミノルタ 血中酸素濃度（SPO₂）測定」「コニカミノルタ ワークステーション展示」を企画しました。今回は450人を超える来場者がありました。被ばくについての相談はありませんでしたが、大盛況でした。

これからもこのような活動を通じてわれわれ診療放射線技師の職種・役割を知っていただき、多くの方々の健康維持のお手伝いできればと思います。

最後に、実行委員、ご協力いただいたメーカーの方、大変お疲れさまでした。



第11回深谷市福祉健康まつり実行委員

会員名	施設名	会員名	施設名
齋藤 幸夫	深谷赤十字病院	柏瀬 義倫	深谷赤十字病院
清水 浩和	熊谷総合病院	登坂 崇史	深谷赤十字病院
大野 渉	羽生総合病院	坂本 里紗	深谷赤十字病院
新井 偉生	東松山市民病院	小島 萌	深谷赤十字病院
横田 文克	秩父市立病院	成田 麻美	深谷赤十字病院
高井 太市	小川赤十字病院	浅見 有希	深谷赤十字病院
		長沼 紗由美	深谷赤十字病院

ご協力メーカー コニカミノルタ ヘルスケア 株式会社 相川さま ・吉岡さま

支部合同勉強会開催報告

第四支部 萩原 貴之・齋藤 幸夫

平成 28 年 11 月 12 日（土）13：30～ ホテルヘリテイジ四季の湯温泉にて、第一・二・三・四・五・六全支部合同の「平成 28 年度支部合同勉強会 in kumagaya」が開催されました。内容は以下の通りでした。

支部合同症例検討会

「救急・時間外 CT の基本的症例～技師から医師へのアプローチ～」

頭頸部外傷性疾患・・・第一支部	埼玉県済生会川口総合病院	鈴木 友理
外傷（胸部～骨盤腔）・・・第二支部	防衛医科大学病院	高橋 敦
内因的大血管疾患領域・・・第三支部	埼玉医科大学国際医療センター	田島 秀晃
腹部領域 その 1・・・第四支部	医療法人熊谷総合病院	吉田 敦
腹部領域 その 2・・・第五支部	獨協医科大学越谷病院	天草 峻
頭部内因的疾患・・・第六支部	指扇病院	安川 紘平

講演

「被ばく相談に必要なコミュニケーション術」	上尾中央総合病院	佐々木 健
「相談者に合わせた被ばく相談対応事例」	埼玉県済生会栗橋病院	内海 将人

特別講演

「SRAT のミッションと未来へ目指すべきビジョン」	日本診療放射線技師会理事 埼玉県診療放射線技師会 副会長	富田 博信
----------------------------	---------------------------------	-------

初めての試みで行われた第一・二・三・四・五・六、全ての支部が協力しての合同勉強会は、157 人の参加者で大盛況となりました。支部ごとの演題発表もあり、ボリュームのある内容となりました。また会場では白熱した質疑応答となり、活気ある勉強会となりました。その後の懇親会でも支部や世代を越えた交流がみられ、有意義な時間となりました。今後も会員の皆さまが参加しやすく、興味ある内容を提供できるよう努めてまいります。最後に実行委員の方々、ご協力いただいたメーカーの方々、大変お疲れさまでした。



実行委員の皆さま



演者の皆さま



熱いぞ熊谷



来年もお会いしましょう！！

第四支部忘年会報告

第四支部 萩原 貴之

平成 28 年 11 月 25 日（金）午後 7 時より、熊谷市のマロウドイン熊谷にて毎年恒例である第四支部忘年会が開催されました。

当日は、会員・賛助会員合わせて約 78 人と多くの施設からの方々に参加していただきました。会場の雰囲気は終始賑やかで、OB の方から新人の方まで幅広い世代の参加により、施設や世代を超えて親睦を深めることができました。

施設紹介では、ユニークなマイクパフォーマンスなどで大いに盛り上がりました。

今後も第四支部会員が参加しやすい、参加してみたいイベントを企画していきますので、ぜひ皆さまの参加をお待ちしております。

参加していただいた会員・賛助会員の皆さまに心よりお礼申し上げます。



盛り上がっています



施設紹介



秩父市立病院さま



羽生総合病院の皆さま



熊谷総合病院の皆さま



秩父病院さま



小鹿野中央病院さま



深谷赤十字病院の皆さま

全ての施設紹介ができないことについてお詫び申し上げます。
今回紹介されなかった施設は来年度優先して掲載させていただきます。

第五支部



第五支部

情報交換会

場所は春日部市民活動センター〔ふれあいキューブ〕

1月26日 19:00～(予定)

2月23日 19:00～(予定)

3月23日 19:00～(予定)

詳しくは、SARTのHPなどでご案内致します。

(気軽にご来場していただいてご意見などお伺いできれば幸いです)

テーマなど皆様のご意見をお待ちしています。

ご参加ご協力をお願い致します。



第五支部理事 矢崎 (i-yazaki@sart.jp)



情報交換会以外でもご意見ご提案があれば気軽にご連絡ください

地区の活動にご協力いただける方からのご連絡お待ちしております。

下記でもご案内をしています。

<http://sart-daigoshibu.jimdo.com/>



第六支部

埼玉県診療放射線技師会

第六支部

1. 巻頭言 木村 浩明
2. 平成 28 年度 第 2 回定期講習会報告
3. 平成 28 年度 忘年会報告
4. 平成 28 年度 総会案内

巻頭言

ポジティブシンキング vs ネガティブシンキング

丸山記念総合病院 木村 浩明

“ネガティブ・シンキング”とは、辛いことや嫌なことがあると何でも悪い方向に考える思考をいいます。酷くなると被害妄想的になり、精神的にも影響してしまうので悪い意味で多く使われます。

一方、何でもプラス思考にとらえる“ポジティブ・シンキング”は、いい意味で捉えられる場合が多々あります。何か悪いことが起きても、悪いことは早く忘れて次に進んだり、それ以上の悪い状況を想像して不幸中の幸いだと考えたりなど、自分の中の悪い面に気づき改善したり自分を高めるには、非常に良いことだとされています。しかし、人はなかなか自分の思考パターンを変えることはできません。マイナス面が目につき出すと、どうしてもさらに悪い方へ考えてしまい、深みにはまってしまうと、どうにもならなくなって自分の思考に縛られてしまい抜け出せなくなる事もあります。どんな問題が起きても冷静に客観的に自分を見つめ“ポジティブ・シンキング”で乗り越えて力をつけながら前進できる人を見ると、本当にえらいなあと感じるのは確かです。ただ“ポジティブ・シンキング”もはき違えてしまうと怖いものです。

例えば、いつもニコニコしていて、どんな失敗をしてもへこたれず、いつも前向きな人がいるとします。初めてそういう人を見たときは、その精神力の強さと前向きさに感心しますが、長く付きあっていると同じ失敗を繰り返していることに気付くこともあります。いつも笑顔を絶やさない事と前向きさはえらいなあと思っていても、ふとした対処や行動に「あれ?!」と思うことがあった場合、果たしてこれは“ポジティブ・シンキング”なのだろうか？それとも、ただ反省しない人、あるいは学習能力のない人なのか？と疑問に感じてられてしまいます。同じ失敗を繰り返していると、次第に周りから信用されなくなり、そんな人に「一度失敗したからといってクヨクヨしないで、もっと前向きにがんばって」などと笑顔で言われても、しっくりきません。

それに比べたら、いつも先回りして心配しながらも失敗したときのことを考え「もし〇〇が起きたときは、この方法でやり直す」「ここで失敗したときは、こうする」などと、あらゆる対応策を立てている人の方が、現実的にはうまくいくように思います。「そこまで考えなくてもいいじゃないか？」と言われるほどの最悪の状況を考える“ネガティブ・シンキング”をしても対応策を考えることができれば、ある意味で徹底した危機管理能力があるからだ

と思うのです。

失敗から学ばない“ポジティブ・シンキング”でスキだらけの状態と、必要以上の“ネガティブ・シンキング”を利用して、いざというときに備えるのであれば、後者のほうがいろいろな意味で成功する場合が多いのではないかと私は考えます。

“前向きな姿勢からくる自信”と“自己の欠点も見えない過信”との違いを見極めるのは難しいですが、“ポジティブ・シンキング”と“ネガティブ・シンキング”は、時と場合を考えてバランスをとりながらうまく使い分けるのがいいと思います。

平成 28 年度 第 2 回定期講習会報告

丸山記念総合病院 木村浩明

埼玉県診療放射線技師会第六支部の第 2 回定期講習会が、平成 28 年 10 月 20 日に JCHO 北部医療センターにて開催され、参加人数は 60 人となり、会場は大盛況でした。今回は、僭越ながら今年度からの新人役員である私が企画担当させていただき、メインテーマを「急性期疾患の特徴と初期診断」とし、2 つのセッション構成で企画致しました。今回の講習会の意図は、撮影する前に患者情報を得ることにより、質の高い検査ができれば患者にとっても有益であるし、また診療放射線技師としても読影の補助をするために初期診断を基にした各疾患の画像上の特徴を把握することで、医師に正確で確実な情報を提供できることを目的としました。

セッションⅠ「症例勉強会」では、救急症例における CT 画像（頭部編、腹部編）、四肢の一般撮影の 3 部構成になっており、それぞれ順番に西大宮病院 豊留章裕氏、白岡中央総合病院 石田仁子氏、指扇病院 石川直哉氏に日ごろよく見られる疾患を中心に講演していただきました。豊留氏の講演では、外傷時の発生時間から注意しなければならない主な症状や、梗塞の治療における血栓溶解療法（r-tPA）までの適応時間などの、いわゆるゴールデンタイムの重要性を把握しました。石田氏の講演では、患者の痛みの部位や症状、検査値を知ることにより各部位における症例を予測することで、ただ撮影するだけでなく『考えながら撮影する事』の大切さを学びました。石川氏には、膝蓋骨骨折と分離膝蓋骨の違いは、画像上だけでは正確に診断ができないので患者の受傷時の状況、身体症状や患部の腫れなど、撮影する際に確認しながら撮影することで違いが判断できるというのは、その後の治療や追加撮影の必要性なども考慮できると思います。

セッションⅡでは「CT 検査による救急疾患の対応」をテーマに、各演者に CT 画像の読影をライブ形式で行ない、その後はディスカッションにより各施設の救急に関する質問を会場からしてもらいました。読影症例は、脳梗塞・肺炎・イレウスの 3 症例を埼玉石心会病院 諸田智章氏、さいたま赤十字病院 小此木俊氏、上尾中央総合病院 内田瑛基氏に行っていただきました。この読影に関しては、それぞれの症例の読影はもちろん、各部位における基本的な読影の仕方と診療放射線技師の読影として症例以外にも診断しなけれ

ばならない重要個所を中心とした講義でした。読影の仕方は個々にあるとは思いますが、どういう場所や順番、どのような事に注意をしながら読影したらよいかなどを講演者のライブ読影により、自分では今まで気にしてなかったことや再認識できたこと、また若手の読影教育になれば幸いです。

その後のディスカッションでは、若手などが当直に入るに当たり、救急疾患の教育をどのように行っているか？救急疾患や珍しい症例の情報交換はどのように共有しているか？などの質問があり、各施設の教育環境も知れたことは、若手の参加者に大きな影響や症例学習の励みに期待できたと思います。

今後第六支部では、新人・若手教育を趣旨とした定期講習会を開催し、ニュアンスは『第六支部を暖かくみんなで盛り上げていこう』というスタイルで学術企画をしております。この機会に支部全員で盛り上げていけたらと考えます。

最後に、この度ご講演いただいた演者の方々と企画協力してもらった第六支部役員各位に深く感謝申し上げます。

第六支部忘年会報告

JCHO さいたま北部医療センター 放射線科

倉内 克憲

平成 28 年 11 月 24 日（木）19 時より、大宮駅前にあるカジュアルダイニング「KICHIRI 大宮西口」にて、毎年恒例の第六支部忘年会が開催されました。

当日は 11 月にも関わらず、朝から昼過ぎまで雪が降るとても寒い日でしたが、9 施設から 35 人と多くの方々に参加していただきました。食事はとてもおいしく、普段あまり交流がない他施設の方々との親睦も深めることができ、多くの参加者が笑顔になれた温かい忘年会だったと思います。

各施設よりご参加いただいた皆さまに厚くお礼申し上げます。併せて来年も第六支部施設の皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げます。